

単元名 ききどころを見つけて

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 曲想と旋律や音色など音楽の構造との関わりについて理解することができる。
 (2) 楽器の音色や楽器同士の関わり、旋律の反復や変化を聴き取り、そのよさや美しさ、面白さを
 感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲のよさを見い出
 し、曲全体を味わって聴くことができる。
 (3) バイオリンとピアノによるアンサンブルに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協
 働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

06070202_001

【教材名】「バイオリンとピアノのためのソナタ 第4楽章」(鑑賞)

(P. 28～P. 29)

【準備等】鑑賞CD

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～3 楽器同士の関わりに気を付け、曲の構成や特徴を捉えその面白さを感じ取って聴く。</p> <p>★二つの楽器のかかわりやひびき合いを楽しもう</p> <p>○前半部を聴き、楽曲の特徴を見付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主な旋律を演奏しているバイオリンやピアノの音色、旋律の反復や変化など、気付いたことを話し合う。 <p>○曲の前半部を聴き、ピアノとバイオリンと二つの楽器の関わり合いについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ア(1回目)の部分の聴き、ピアノとバイオリンが同じ旋律を演奏し、しかもバイオリンがピアノを時間差をもって追いかけていることを聴き取る。 ・最初からイ(2回目)までを聴き、イはアと別の旋律であること、主旋律はピアノが演奏していることを聴き取る。 ・最初からア(2回目)までを聴き、気付いたことを伝え合う。 ・最初からイ(2回目)までを聴き、気付いたことを伝え合う。 ・次の音楽がどのようなか想像してから、最初からア(3回目)までを聴き、気付いたことを伝え合う。 <p>○曲の前半部全体にわたる曲想とその変化などの特徴を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何もせずに全曲を通して聴いて、曲想とその変化を聴き取り、楽曲の構造について気付いたことなどをメモし話し合う。 <p>○「バイオリンとピアノのためのソナタ 第4楽章」の音楽を形づくっている要素の関わり合いを体の動きで表現し、曲の面白さや特徴を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4～8人グループで、旋律の反復や変化、カノンの仕組みなどの楽曲の構造を表現する。 ・体の動きをそれぞれのグループごとに発表する。 ・互いのグループの表現について、よいところや感想などを出し合う。 <p>○互いのグループの表現についてよいところや感想などを話し合う。</p> <p>○「バイオリンとピアノのためのソナタ 第4楽章」を、曲想やその変化などの特徴や、音楽を形づくっている要素などとの関わり合いに気を付けて全曲通して聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どちらかの楽器に決めて弾き真似をしながら、曲全体を聴く。 ・何度も現れるアの旋律に留意しながら、旋律の動きに合わせて手などを動かしながら聴く。 ・曲想とその変化などの特徴や、音楽を形づくっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・前半部とは、おおよそ最初から2分40秒まで ・旋律の流れに合わせ、なめらかなイメージを手で表現させながら聴かせる。 ・バイオリンやピアノの特徴や音色について説明し、実物があれば子供一人一人に触らせてみるなど、興味をもたせるようにするとよい <p>【共通事項】音色 旋律 反復 変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「かえるの合唱」やパッヘルベルの「カノン」を想起させ、同じ旋律を時間差をもって演奏することを「カノン」ということを押さえる。 ・二つの旋律の動きを手の動きで表現させるとカノンであることが分かりやすい。 ・イを聴くときは、動作も何もせず鑑賞する。 ・アの1回目で行った手の動きをここでも行ってよい。ピアノ役とバイオリン役に分かれて手を動かすようにすると、カノンであることや、どちらが先行しているかがよく分かる。楽器の弾きまねをさせることも考えられる。 ・ここまでアとイの旋律が反復されているので次も反復があるのではないかという予想を立てさせ、それから聴くと期待感も高まる。 ・カノンの仕組みについては、音楽の縦と横の関係、または音の重なりに関する仕組みと捉えてよい。 <p>【共通事項】音楽の縦と横の関係</p> <p>【評】曲想と旋律や音色など音楽の構造との関わりについて話し合う活動を通して「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの中で、ピアノ役とバイオリン役に分かれて動きを考えさせる。 ・アの旋律では、動きもカノンになるように模倣し、イは互いの楽器の関わり合いを考えて体の動きを考えるようにする。 ・体を動かす活動の際、スカーフやテニスボール大のボールなどを持たせると、より一層表現の幅が広がる。 <p>【共通事項】呼びかけとこたえ</p> <p>【評】バイオリンとピアノによるアンサンブルについて話し合う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体を動かす活動の際、スカーフやテニスボール大のボールなどを持たせると、より一層表現の幅が広がる。 ・「新しい旋律も出てくるかな？全体はどんな曲だろう？」と投げ掛け、期待をもたせる。 ・盛り上がりや強弱の変化にも注目させる。

要素の関わり合いから，曲の面白さや特徴を理解し，気付いたことを伝え合う。

・「バイオリンとピアノのためのソナタ 第4楽章」を紹介する文を書く。

・学んだ内容（楽器やその音色，旋律の反復や変化，カノンなど）を文に取り入れることを示唆する。

【評】バイオリンとピアノの音色や二つの楽器同士の関わり，旋律の反復や変化を聴き取りそのよさや美しさ，面白さを感じ取りながら聴く活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】